

第9期淡路地域ビジョン委員会第2回全体会 概要

- 1 日時 平成30年5月26日(土) 13:30~16:00
- 2 場所 洲本総合庁舎内 3階会議室A・B
- 3 参加者 淡路地域ビジョン委員等 36名
(委員30名、講師1名、スタッフ5名)
- 4 議事概要
 - (1) 開会
 - (2) 開会あいさつ
小田 美根子委員長
 - (3) 副委員長指名
・小田委員長が、木戸 隆一郎委員、原 竜也委員、安居 道彦委員を副委員長に指名した。
 - (4) 講演「活動の企画に向けて」
講師 岩木 啓子 氏(ライフデザイン研究所FLAP)

ア 活動内容を企画する手がかり

前回お話した内容は、グループで上手くやっていくためには、仲良く良い関係性でないといけないということと、活動を組み立てて行くときに、筋道を立てて論理的に組み立てて行くことが必要ということでした。今日は、それぞれのテーマに分かれて、中身を考えて行かれると思いますが、中身を考えて行く時の手がかりの話しを簡単にしようと思っています。

まず、活動内容を企画する手がかりというお話をして行こうと思います。企画の企という字は、屋根の上に立って遠くを見渡している字だそうです。こんなことを実現したい、こんな問題を解決したいというビジョンです。画という字は、田んぼを正確に計って区分けするという字なんだそうです。こんなことを実現したいというビジョンをきちっと形にしていくという意味を持っています。企画を平たく言うと、思いを形にすることという言い方をします。今から皆さんが地域ビジョン委員として、それぞれのテーマで企画していただくことになりますが、それは、淡路をこんな風にしたい、淡路のこんなところが気になるから何とかしなきゃという思いだったり、それを具体的に形にしてくださいと今からやっていただくことになると思います。

それを考える時にどうすればいいのか。今言ったように、企画というのは思いを形にすることなので、思いが大事で、一人ではなく仲間と進

めていきますので、仲間の思いはどうなんだろうというところを共有しながら進めて行くことが大事な1つ目の要素です。

2つ目がニーズ、必要なことです。ニーズというと人を集める時の参加者ニーズのようなものであると捉えがちですが、それ以上に大事なのが時代ニーズ、地域ニーズです。このテーマに関して淡路で今どんなことが起こっているんだろうとか、今時の特徴的なことは何だろう、これからどんな風になって行きそうなんだろうという風にそれをきちっと見つめると、今やるべきこと、求められているニーズが見えてきます。

3つ目はできること。私達は何ができて、何ができないのかということも考えてみてください。例えば、ものすごく壮大な企画を考えたんだけど、ちょっと私達の力では無理とか、莫大な予算がかかると言われたらできないですね。だから、自分達に無理なくできることはどの辺りなのかということも探る必要があります。ということで、「WISH」やりたいこと、「NEEDS」必要なこと、「CAN」できることを全部摺り合わせた真ん中の重なった部分が「企画」やるべきことになってきます。摺り合わせが大事で、3つのどこから入っていただいてもいいですが、最終的には3つをバランス良く摺り合わせるということを意識のどこかに置いていてください。

「WISH」が無くて「NEEDS」と「CAN」だけの企画はつまらないです。活動している人が楽しそうに生き生きとやっていないものに人は集まって来ないので「WISH」を大事にして欲しいと思います。

「NEEDS」が無くて「WISH」と「CAN」だけの企画は自己満足です。必要かどうか分からないけどやりたいことをやるのであれば、ビジョン委員会ではなくて自分の趣味でやってくださいという話しになります。

「CAN」が無くて「WISH」と「NEEDS」だけの企画は絵に描いた餅です。必要とされていてやりたいけどできない状況です。

これらの3つ全部のバランスがすごく大事です。各分野で意見出しされていると思いますが、この3つについて、それぞれどんなふうを考えているかを出し合いながら、どんなことをやっていくのかというところを煮詰めていただきたいと思います。

イ 目標設定とは？

最終的にここにたどり着きたいという的・目指すべき方向のことを目的といいます。これまでビジョン委員会で1回少しやったからと言って地域が劇的に変わる訳ではないので、目的にたどり着けるためには、途中、途中にしるべがあって、それを刻んで行く、それを積み重ねて行きながら最終的にこの的にたどり着こうということで、このしるべのことを目標と言います。1年目の今年は1つ目の目標、2年目の来年はここ

までやっていきたいと思いますという風に、任期中にたどり着くか分からないけど、行く行くはここまで行くんだということを見据えて目標を設定していくことになります。同じことをやっても、何のためにやるのかによって方向性が違ってきます。

目標を達成するときにも途中途中に一里塚というものを積み上げていく、これをねらいと言ったりしますが、これをやったらここまでできる、1年間でここまで行こう、2年目はここまで行こう、最終的にはここまで目指すんだという関係性にねらいと目標と目的がなっています。

そういうことを意識しながら、先ず目的を設定し、目標を設定する。細々したねらいも考えて行くという風に組み立てていただくといいものになると思います。

最後に、目標には2種類あります。1つ目が「Output」行為目標、何をするかです。例えば、人を集めてイベントをするとか、それをきちっとやり遂げることが何なのかというのが「Output」行為目標です。

2つ目の目標が「Outcome」成果目標です。これをする中で何を達成しようとしているかということに合わせて考えて下さい。人が集まってイベントしますという行為をやり遂げたとしても、それを通じて防災のことを充実させようと思ってやるのか、交流のためにやるのか、ふるさと意識を高めるためにやるのかによって、中でやって行く細々としたものは変わってくるはずですが、何のためにということ意識しながら何をするかということと同時に考えるという、この2つを目標として意識していただければ、それを積み上げて行った向こうに的である目的というのが徐々に見えてくると思います。

一人ひとりがわがまちに思いをもち、よりよい地域づくりのための活動を創り出していきたいと思いますということで、この後のテーマごとの話し合いを充実させて行っていただきたいと思います。

(5) オリエンテーション

- ・平岩班長から、意見交換の進め方について説明。

(6) 意見交換Ⅰ・Ⅱ

- ・「教育・文化」、「防災」、「健康・福祉」、「まちづくり・地域づくり」、「農林水産」、「商工・観光」、「エネルギー・自然」の7つの分野に分かれて意見交換（40分×2回）を実施。

(7) 各分野から意見交換まとめ、分科会名称、活動概要の発表

- ・ビジョン委員として活動してみたい事等を発表し、どのような分科会を作るかを確定させた。

[詳細は別紙参照]

(8) 閉会あいさつ

原 竜也副委員長

(9) 閉会